

# APU、マネジメント教育国際認証取得 ——「世界から選ばれる大学」を目指す



APU 授業風景

立命館アジア太平洋大学  
副学長 横山研治

2000年に設立された立命館アジア太平洋大学 (APU) は16年が経過し、日本のみならず世界でも多文化教育を行うグローバル大学として高い評価を受けるまでに発展した。また国際経営学部と経営管理研究科 (MBA) は、今年8月にアメリカに本部を持つマネジメント教育の国際認証評価機関である AACSB International から国際認証を受けた。08年に活動を始めて8年間をかけた取り組みであった。

当初多くの大学関係者がその発展を危惧していた APU が、短期間に世界での認知度をここまで高められたのはなぜだろうか。時間と労力が必要となる認証取得に動いたのはなぜだろうか。また APU は今後、世界の競争の激しい高等教育市場でどのような戦略を持って「世界から選ばれる大学」になろうとしているのであろうか。

## 多文化環境を教育の基礎に

APU は2000年に国際大学として設立された。APU は多文化環境を教育の基礎とすることを手段とした。この多文化環境を「3つの50」という表現で具体化し、これを達成するために4つの戦術を導入した。

1つには4月と9月の年2回の入学時期の設定である。世界の授業開始時期は一様ではない。多くの国から学生を受け入れるためには、4月開始だけでは不十分である。APU は4月入学に加え

9月入学も導入した。留学生は現在、約30%が4月入学で、残りの70%は9月に入学する。

2つめは日英2言語教育である。大半の授業を日本語と英語で開講する。ある学期に日本語で開講した科目は、次の学期には英語で開講される。あるいは同じ学期に日本語開講の授業と英語開講の授業が並行して開講されることも多い。日英2言語教育により、留学生は入学前に日本語能力を身につけておく必要はなくなり、外国から直接 APU に入学できることになった。日本人は初めは日本語による授業を履修することができる。その間、留学生は語学としての日本語を、日本人学生は英語を学習する。3年生以降になると、大半の学生が日本語の授業と英語の授業を共に自由に履修できるようになる。

3番目の戦術は各国の著名な高校への直接訪問である。アメリカやオーストラリアの大学が留学生を勧誘する場合には、主要都市で開催される留学フェアへ参加する方法を採用している。しかし、APU は主要高校に直接訪問をして学生を勧誘する方法を行ってきた。

最後の戦術は寮政策である。留学生が日本語を話せずに入学するという事は日本の生活習慣が分からないということであり、市民とコミュニケーションができないということである。留学生は1年間は学内の寮に入居させることとした。この間に生活習慣を身につけさせ、2年目以降は市